

まこと

Volume 63 No.7
JULY 2016



ハワイ学生会は6月10日から12日に発足後初のキャンプをカハナ・ベイ・ビーチ公園で実施。キャンプではお楽しみ行事に加え、朝夕のおつとめや清掃ひのきしんもビーチで行い、地域社会へのをいがけとなった。

Tenrikyo Mission Headquarters of Hawaii

リレー巻頭言

教祖130年祭の仕上げの年に、『天理教の考え方、暮らし方』の本が道友社から出版された。編者は、あとがきに、「本書の内容は、『天理時報特別号』に1980年から93年にかけて、連載された「天理教の常識」の中から100編を選び加筆してまとめられたものです。（中略）もとより教祖の教えは、いかに時代が変わろうとも不変の真理であり、自ら身をもって示された道すがら、すべての人間が歩むべき「ひながたの道」である事には変わりありません。この教えの素晴らしさを改めて確認し、一人でも多くの人をたすく道へと導く一助としていただくことを願ってやみません」と本書に込めた思いを記されています。

この本は、たすけ合って陽気に暮らすために、これだけは知っておきたい心得、即ち基本教理のアプローチ本で、分かりやすく解説されていて、よふぼくの必読本の一冊です。本を読んでいくうちに、心に響く箇所がいくつも出てきます。その一つが、第六章「いんねんと徳」の「日常性の陽気ぐらし」の項です。

その項の中で、著者は「親神様は、人間が陽気ぐらしするのを見て共に楽しみたいという思召から、この世と人間を創造されたと教えられています。したがって、陽気ぐらしが人間の生きる最終目的であって、これは理屈を超えたものであります。天理教は、個人はもとより、あらゆるレベルで陽気ぐらしが出来る世の中にしたいというのが、その目的です。では、天理教に入信したら、すぐに陽気ぐらしができるようになるのか。これはイエスでもあり、ノーでもあります。陽気ぐらしへ至る道筋を知る事ができたという意味においては、イエスであります。しかし、筋道を知ったからといって、すぐに陽気ぐらしを味わえるようになるかという、ノーです。知ることと身に味わうことの間をつなぐのが実行で、信仰というのは、この実行の歩みを指して言うのでありましょう」と信仰の神髄をわかりやすく表現されています。

ところで、私事ですが、1973年9月1日に家内と私は結婚し、海外布教を目指しハワイに赴任することになりました。出発にあたり、父は「海外布教の道中に於いて、色々な節々を見せていただくだらうが、それらは、ひたすら人間をたすけてやりたいとの親心から見せていただくのであるから、ジタバタせず、親神様のご守護の世界に身も心もどっぷり浸かって、生涯を歩み切ることが肝心。そして30年、40年、50年と、教祖のひながたを目標にたすけ一条の道を歩ませてくださいうちに、成程なあと感じる日が必ず来る。夫婦で道の御用の上にしっかり伏せ込ませていただく心を定めて通り切るように」と諭し海外布教に送り出してくれました。

さて、いざ心定めて御用の道を歩み始めたものの、辿る道は言うまでもなく順風満帆ではありません。むしろ紆余曲折、途中、ジグザク道、山あり谷あります。また悲しみや苦しみ、時には涙をともしなう身上、事情に遭遇したりします。しかし「身上事情は道の華」です。身の回りに起こることは、すべて心の成人への節であり、また旬なのです。これまでの道中、家族や信者さん方の上に、いろいろな身上や事情、さらに教会を支えてくださった方々の出直しという節々を次から次へと見せていただけてきました。しかし、それらの節を経験する度ごとに、より身近な日常生活の中にこそ、陽気ぐらしがあるのだということに気づかされてきました。

本の頁に戻りますが、著者は続いて「信仰すれば、すぐに何らかのかたちでご利益がある。こういうインスタントな信仰は、人間にとって望ましいように思えますが、それが陽気ぐらしに結びつくかどうかは、疑問です」と述べておられます。

言うまでもなく親神様は、このようなインスタントな信仰を望んでおられないと思うのです。なぜなら、そこには親神様が、本来人間に求められておられる心の成人へ向かう、信仰の歩みが生まれてこないからだと思うのです。真のよふぼくが目指す信仰の歩みとは、おふでさきの、

しやんして心さためてついてこい

すゑはたのもしみちがあるぞや (V-24)

のお言葉に込められています。私はこのお言葉を心の指針としているのですが、このお言葉を通して、親神様は、思召をよう思案して、この道を通りきる心を定めてついて来るように、と人間に固い心定めを促され、その上で然るべき日が来たならば、「すゑはたのもしみち」につながっていくのだよ、とお約束下さっているのだと私なりに思案させていただいています。

そのためにも生涯をかけて、親として、日々、「つとめとさづけ」の日常の実行の歩みを通して、心と身体を鍛え、人を育て、次代へつなぐ努力を続けていかなければなりません。

夫婦で海外布教に飛び出してから43年。現在、子供5人、孫10人をお与えいただいています。日々の生活の中で、皆揃っておつとめをつとめさせていたきながら、道の将来を担う人に育て上げることを心に定め、これからも、陽気ぐらしの道を明るく勇んで歩んでいきたいと思っています。

狭いのが楽しみやで。小さいからというて不足にははいかん。小さいものから理が積もって大きいなるのや。
(教祖伝逸話篇-142)

【美馬孝俊】

6 月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、ハワイ伝道庁長山中修吾、一同を代表して、慎んで申し上げます。

親神様には教祖をやしるにこの世の表にお現れ下さり、よろづ委細の元の真実とたすけ一条の道であるおつとめをお教え下さり、私たち人間を陽気ぐらしへと導く確かな道をおつけ下さいました。私共は日々親神様の御守護を感じ、喜び勇んで暮らせていただいておりますと共に、思召に添う成人の努力を積み重ねております。その中にも、本日は当伝道庁の6月月次祭の日柄を迎えましたので、只今よりおつとめ奉仕者一同心を合わせ、座りづとめ・てをどりを陽気に勇んでつとめて、世界たすけへの真剣な祈りを捧げさせていただきます。御前には今日を楽しみに寄り集った道の兄弟姉妹が、勇んでみかぐらうたを唱和し祈念する状をもご覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

今月27日には、おぢばの修養科で学ぶハワイ関係者4名が3ヶ月の修養生活を修了し、教祖の道具衆として新たな人生の旅立ちをさせていただきました。また伝道庁では今日からハワイ修養会を開講させていただき、受講生1人だけではありませんが、講師と伝道庁スタッフ共々に真剣に努めさせていただきます。来月4日には恒例の天理教ピクニックを開催し、管内の一手一つの親睦を一層強めさせていただきます。また来月おぢばで開催のおやさセミナーにはハワイより前期生6名、後期生2名が受講いたしますが、一同元気に真剣に教祖の御教えを学び身に付けさせて頂きたく存じます。さらに来月の15日と16日におぢばで開催される天理フォーラム2016には、ハワイからも実行委員を含む多くの者が参加しますが、英語圏の教友が絆を深め、世界たすけへの情熱を分かち合い、よふぼくとしての意識と使命感を高めさせて頂きたく存じます。

私ども一同は一れつ人間の陽気ぐらしをお望み下さる親神様のお心に添わせていただき、教祖の道具衆として神一条喜び一条たすけ一条の道をハワイのこの地でしっかりと歩ませていただきます。この道にお引き寄せ頂いた私たちは今後も、をやのお心にしっかりと応えさせていただきます。日

々成人への努力を積み重ね、身近な所でひのきしん・にをいがけ・おたすけに精進させていただく所存です。何卒親神様には私共のこの真心をお受け取り下さり、ハワイの道が伸展し、世界中の人々が元の親を知り一れつ兄弟姉妹の真実に目覚めて、互いにたすけ合い睦み合う真の平和世界である陽気ぐらしの世の状へと一日も早く立て替わりますようお願いのほどを、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

祭典役割

祭主	山中庁長	
扨者	美馬孝俊	久尾マーク
賛者	川崎カイル	齋藤ダスティン
指図方	齋藤コーリン	
講話者	中川オードリー (英)	
通訳者	一瀬常德	(日)

	座りづとめ	前半	後半
てをどり (男性)	庁長 R.山	T.一瀬 Y.宮内	K.川崎 G.井元
	M.社本	W.三國	T.岩田
てをどり (女性)	庁長夫人 M.柿谷	M.岩田 T.中尾	R.宮内 A.綾川
	M.三國	S.柿谷	Y.川崎
笛	S.柿谷	D.明本	B.岩田
チャンポン	G.本田	E.高田	D.齋藤
拍子木	T.西村	M.久尾	S.椎葉
太鼓	T.美馬	C.齋藤	N.坂上
すりがね	C.三國	M.稲福	W.城
小鼓	M.岩田	T.井上	B.美馬
琴	T.松川	L.川崎	M.井上
三味線	J.山	M.山下	L.井上
胡弓	C.明本	C.浜田	N.熊本
地方	Y.中尾	O.中尾	D.桧垣
	S.中尾	D.鈴木	M.中尾

今日は父の日です。お父様方にとってのこの特別な日に敬意を表する上からも、本日はラナイ教会の2代会長であった私の父、故菅ハリーが25年前にさせていただいた神殿講話を参考にしながら務めさせていただきたいと思っております。その神殿講話で父は、菅家の歴史や入信時のこと、そしていくつもの苦学苦難の中をいかにして親神様を信じ、家族の信仰を揺るぎないものにしていったのかなど、よふぼくとしての道すがらを話しました。

菅家のハワイでの歴史は、1907年、家族がやっているお店を経営するために、私の祖父、菅猪之助（エンノスケ）が従弟の飯田鴻一と共にハワイに来た時から始まります。このお店は、ハワイの日系人コミュニティに日本特有の商品や、家具、陶器などを販売するイダ・ストアです。イダ・ストアは、白木屋やマルカイができる前は日本製品の主要輸入業者でしたし、アラモアナ・ショッピングセンターのランドマーク的なテナントでもありました。祖父はイダ・ストアの総支配人になり、お店は繁盛し、大きくなりました。その後祖父は高宮芳枝と結婚して男の子4人と女の子一人を授かり、菅家の人数は増えていきました。私の父は上から2番目でした。

天理教の信仰が菅家にとって重要になったのは、1929年に上野作次郎先生と津志夫人が布教師としてホノルルに来られた時からでした。私の祖父と祖母は、ハワイの日経新聞社のオーナーから上野先生ご夫妻がハワイに到着されることを知らされ、日系人コミュニティで歓迎するべく、お二人をお迎えに行ってくれないか、と頼まれました。その時上野先生ご夫妻にお会いしたことから、私の祖父と祖母は天理教という新しい宗教に興味を持ち、質素な教会へ毎日お参りに行くようになりました。私の父は3歳の時、歩行障害を起こすポリオにかかりました。上野先生は毎日祖父の家を訪れ、父におさづけを取り次いでくれました。父の回復を祈って1



日2回来ていただきました。そんなある日、兄と遊んでいた父は、突然立ち上がって上野先生に向かって歩き出しました。父が歩く姿を見た父の兄はびっくりし、大声で祖母を呼びました。この不思議なご守護に喜んだ祖母は、お店へ走りました。それを聞いた祖父は急いで家に戻りました。祖父と祖母は父を抱いて教会へ行き、神様に御礼を申し上げたそうです。菅家はホノルル教会の信者第1号になりました。それから数カ月後、祖父は、参拝者が多くなってきた上野先生ご夫妻のためにもう少し大きい家を探してお手伝いをしよう決心しました。それまでは12フィート×12フィートの小さい部屋を借りておられました。祖父はローワー・パウオア地区フォート・ストリートのYBAの隣に少し大きい家を見つけました。これは1930年のことですが、教会はその後1932年により大きな家に移転しました。私の祖父はとても寛大な人で、教会の経費は全て祖父が支払い、イダ・ストアの全ての社員たちをホノルル教会の信者へと導きました。

1年後、祖父は突然病気になる、クアキニ病院に入院しました。それは、真柱様と上田先生の初めてのハワイご訪問中でした。祖父が重病であることを聞いた上田先生は、早速クアキニ病院に駆けつけ、おさづけを取り次いでくださいました。しかし、祖父はそれから間もなく、若い妻と5人の子供を残し、47歳で出直しました。まだ若くて可愛いものだから祖母は再

婚した方が良い、と思った飯田おじさんは、菅家の5人の子供のうち4人を養子に出し、まだ7歳だった私の父を日本へ連れて行って仏教のお寺で小僧をさせようと計画しました。飯田おじさんのこの計画を知った上野先生は、菅家の家族は自分が引き受けるから、そんな計画は止めて欲しい、と硬い決心を飯田おじさんに告げました。反対された飯田おじさんは腹を立て、銀行から祖父のお金や保険、株などを全て引き出して、それを祖母に渡した後、「菅家とはもう親戚でも何でもなし。一切の縁を切る」と宣言しました。菅家を救っていただいたお礼にと、祖母はそのお金をホノルル教会にお供えしました。祖母はその後、下の二人の子供を連れておぢばへ行き、6カ月月間の別科（現在の修養科）に入りました。父を含む上の3人はハワイに残し、上野先生のお世話になりました。別科での修養中、父の弟ジェームス・トウルが病気のため日本で出直すという悲惨な出来事が起こりました。一番下の息子を突然失うという悲しみの中も耐え忍び、祖母は別科を卒業しました。ハワイに戻った祖母は、1935年、ラナイ島へ単独布教に出ました。祖母はその後40年間ラナイ島でプランテーション労働者やローカルの方々へのをいがけに回りました。祖母がにをいがけされた方々の中には、後日キャッスル教会の会長になられた城功先生やカイクキ教会の会長になられた井上マイク先生もおられます。長男のロイは後日ラナイ島の祖母の処で暮らすことになりましたが、下の3人はその間上野先生ご夫妻がずっとお世話下さいました。教会のお世話になることは、父や弟、妹にとって困難なこともあったようですが、皆胸を張って生きました。まだ少年であった父は、毎週週末にはプナホウ・スクール近くでヤード掃除をして、3時間働いて75セント稼ぎ、夏休みにはドール缶詰工場に働いて自分や弟、妹たちの学用品を買い、残りは全て教会へお供えしました。幼いころに父親を失い、母親とは離れ離れの生活。その母親がホノルルに出て来て子供たちに会うのは大祭月だけ。そんな中でも、何かと不自由があったにもかかわらず、父は弱音を吐くことはありませんでした。それどころか、教会

のご家族と一緒に暮らせること、そしてお道の信仰をさせてもらえることに、父は心から感謝していました。

父の小児まひはご守護いただきましたが、いくらかびっこになってしまったため、第二次世界大戦勃発後の兵役は免除されました。父の兄ロイは兵隊にはなりましたが、日英バイリンガルとして米軍将校の通訳を務め、戦場に赴くことはなく危険を免れました。あの戦争では全ての人間が苦しみを味わいました。皆さんもご存知のように、日系アメリカ人は、老若男女の区別なく米国西海岸や中西部の収容所に抑留されました。ハワイ在住の日系人の大半はこの抑留を免れたのですが、日系宗教の聖職者や日系学校の教師、日系ビジネスの経営者たちはやはり抑留されたのです。ホノルル教会を含む日系の教会は閉鎖され、上野先生や天理教のその他の先生方も強制収容されました。

ある日、突然FBIが教会にやって来ました。驚いた上野夫人はとっさに、祈りの目標である神実様を隠そうとしましたが、教会に住み込んでいた信者の一人が上野夫人に、「そんなことをしてはいけません。元に戻しなさい」と強く言いました。驚いたことに、FBIは、「お社の前に大きなカーテンをかけなさい」と夫人に言うだけで去って行き、その後二度と教会に現われることはありませんでした。そのおかげで、上野夫人と信者たちは、その後カーテンの後ろで朝夕のおつとめを勤めることができました。戦争が終わり、上野先生は無事にそしてお元気で教会に戻って来られました。その二日後、父の叔父である飯田おじさんが教会にやって来て、父と上野先生に会いたいと言うのです。飯田おじさんは、菅家とは縁を切ると言ってしまったとんでもない過ちを、菅家に謝りに来たのでした。日経ビジネスの経営者として飯田おじさんも抑留されましたが、偶然上野先生と同じ収容所に抑留されていたのです。飯田おじさんと上野先生はとても親しくなり、自分の過去の過ちを修復したいと考えるようになったのです。飯田おじさんは心から謝罪し、菅家と飯田家の近い親戚としての関係を戻したいと申し出ました。

菅家の子供たちは成長してゆきますが、自分たちの家でもあるホノルル教会への支援を忘れることはありませんでした。皆さんの中で覚えておられる方もおられるかも知れませんが、今は伝道庁となっているヌアヌのこの場所は、元々1950年代にホノルル教会が購入して所有していました。父の兄ロイが、国際港湾労働者倉庫労働者組合の組合長であったこの土地の前所有者、ジャック・ホール氏との交渉にあたり、教会がこの住宅と土地を購入する手助けをしました。実は、ここの住宅が私にとっても最初の住居でした。私の父と母は結婚後、母屋の台所近くにあるガレージ横の小さいワンベッドルームのコテージに住んでいました。私も生まれてから数年は斉藤家と一緒にここに住んでいました。斉藤家、城家、菅家、前田家の子供たちが皆揃って、クリスマスや正月をお祝いしている古い写真が今でもたくさんあります。

父はローカルの映画館や日本劇場、東宝シアター、東洋シアターなど日本の映画館のポスターや、色々な会社の宣伝用ポスターを描く素晴らしい商業アーティストとして良く知られていました。父はエルビス・プレスリーや三船敏郎、水前寺清子、その他ハワイで興行や撮影を行った歌手や映画俳優にも大勢会いました。しかし、私の友人たち、特に男の友人たちが驚いたのは、父がローカルのレスリング・プロモーター、ジェントルマン・エッド・フランシスの仕事を受けていたことから、ハンサム・ジョニー・バレンドやリッパー・コリンズ、ミシング・リンクなど、シビック・オーディトリウムで行われていた第50州ビッグタイム・レスリングのスーパースターたちと個人的な知り合いになっていたことでした。ホノルル・アカデミー・オブ・アーツとホノルル・アドバタイザー新聞社でトレーニングこそ受けましたが、父は手と目に特別な能力を授かっていました。父は美術の才能を惜しげなく使い、伝道庁やハワイ管内の教会、婦人会や青年会の総会、バザーなどの特別行事などのポスターを快く描いていました。父は毎年、自分の孫たちやよその子供達の誕生日や卒業パーティーなどで、子供たちが

好きなスーパーヒーローやよう精のプリンセス、漫画キャラクターなどを描いて喜ばせていました。

父はやがて祖母の跡を継いでラナイ教会の会長になりました。祖母が脳溢血を患って会長職をリタイヤした際に、ラナイ教会をホノルルに移転しました。商業アーティストとしての仕事をフルタイムで続けていたことから、父は従来の教会長とはちょっと違っていました。月次祭の祭典中に居眠りしていたこともしばしば。おふでさきは一句も暗記していなかったのではないかと思いますし、ちゃんと出来た男鳴物は数取りを含めて3つだけ。十二下りのおてふりについては触れないでおきましょう。でも、お道の基本教理には確固たる信念を持っていましたし、日々のご守護を心から感謝していました。寛大な心と深い思いやりから、他人様に喜んでもらおうと自分の芸術的才能を使っていました。

アメリカの作家であり感動的なスピーチをするドクター・レオ・バスカグリアが言った有名な言葉があります。「私たちの才能は、神が私たちに授けて下さった贈り物です。私たちがその才能を使うことは、私たちから神への贈り物です。」父の信念と行動はこの言葉によく表されています。私も私の妹たちも全然駄目なので、悲しいかな菅家には父のこの才能を受け継いでいる者はいないようですが、父の孫やひ孫たちにはまだ幾らかの望みはあるかも知れません。しかし、美を愛する心、他人様に対する優しい心、そして神様を信じる心は皆継いでくれるものと思っています。

最後に、私のこの希望を物語るお話をさせていただきたいと思います。私の姪デイナが幼稚園へ通っていた時のことですが、デイナのクラスメートに、病気が原因で髪の毛が薄い男の子がいました。自分でも気が付いていたその男の子は毎日野球帽を被って学校へ来ていました。ある日学校で、生徒証明書の写真と肖像写真にするための写真撮影があり、帽子を取って写真を撮ることになりました。後日、写真が出来上がって生徒たちに配布すると、クラスの皆は自

分の写真を見て喜びはしゃいでいましたが、その男の子は悲しそうにしていました。横に座っていたデイナは、突然男の子の写真を覗き込んで、「とってもハンサムだと思うよ」と男の子に言いました。それを聞いた男の子は大きな笑顔を浮かべ、ゆっくりと帽子を取り、その日はそれからずっと帽子を被らずにいたそうです。この様子を見ていた先生は、迎えに来た男の子の母親にその話をしました。それを聞いた男の子の母親は嬉し涙をこらえることが出来ず、泣

き続けたそうです。たった一人の子供のほんの些細な優しさや美の本質を見極める才能が、クラスメートだけでなく、その母親や先生にも大きな影響を与えました。私の父も必ずや孫のこの行動を誇りに思ったでしょうし、親神様もお喜び下さったものと思います。

子供たちの模範になるべく努力し、優しさや同情心、感謝の心を子供たちに教えようと努力しておられるお父様方、父の日、おめでとうござります。

婦人会だより

7月のおぢばは、世界中から帰り集った子供たちの喜びと笑顔に溢れた、一年で最も陽気な月だと思います。三才心を忘れずに、家族や地域社会、そして存命の教祖に喜んで頂けるように今月も通らせていただきますよう。

■バザーひのきしん（毎週水曜日）

ウエストハウス 9:00 - 12:00

■ヌアヌハレ慰問

7月9日（土） 9:30

※今月の例会、鳴物練習はありません。

※直会当番は、周東グループです。

少年会だより

■夏のこどもおぢばがえり

今年はハワイから81名が帰参する予定です。その内11名が海外少ひに参加し、天理柔道から21名がハワイ団のプログラムに参加します。

第46回天理教バザー

2016年8月28日（日）8:30AM - 2:00PM
天理文化センター（2236 Nuuanu Avenue）

7月行事予定

- 1日（金）・月例にをいがけデー
- 2日（土）・Adopt A Hwy清掃ひのきしん
- 4日（月）・天理教ピクニック
- 5日（火）・天理文化センター月次祭
- 7日（木）・月例コミュニティひのきしん
- 9日（土）・婦人会ヌアヌハレ慰問
- 11日（月）・宮内部員帰本
・TCC&文庫ジョイント委員会
- 13日（水）・青年会会議
- 14日（木）・ハワイ修養会終講
・少年会会議
- 16日（土）・主事会
・学生会ひのきしん
- 17日（日）・月次祭
・サンデースクール/アロハバンド
・教会長布教所長会議
・天理フォーラム会議
- 18日（月）・ワイキキ神名流し
- 19日（火）・庁長夫人帰本
- 20日（水）・庁長帰本（～8/3）
- 26日（火）・遥拝式
- 29日（金）・青年会教祖伝勉強会
- 30日（土）・庁長夫人、宮内部員帰任

TENRIKYO HAWAII DENDOCHO

2920 Pali Highway Honolulu, HI 96817

Phone : (808)595-6523 Fax : (808)595-7748

E-mail : dendocho@tenrikyo-hawaii.com

感謝、慎み、たすけあい

陽気ぐらしのキーワード

～ハワイアンスタイルで気楽な集まりを～

「昔は50歳はもう若くないと思っていたけど、そんなことはなかった！」

まだ若いと思っておられる60歳以上の男性で、肩を張らずリラックスした雰囲気が集まりませんか。このシニアメンズクラブに興味のある方を募集します。人生により豊かな趣と笑いを加え、楽しみを増やしましょう。

内容はゲートボール、音楽（カラオケ、ウクレレ、合唱）、遠足、簡単な運動（ラインダンス）、クラフトなど。これらはいくまでも案ですので、みなさんからの提案もどしどしお待ちしております。日時、場所、集まりの頻度などは私たちの最初の集まりで話し合いたいと思います。最初の集まりは、2016年9月21日（水曜日）午前10時から天理文化センターコートヤード（2236ヌアヌアベニュー）で行う予定です。

なお、50歳から59歳の男性の方もクラブ発足後はジュニアメンバーとしてのご参加を歓迎します。質問や詳細につきましては、美馬孝俊（227-9298）または三国クライド（221-8289）までご連絡下さい。